

令和7年12月11日

飛驒市長 都竹 淳也様

飛驒市議会議長 澤 史朗

市政に関する要望書

議会として調査してきた事案や議会活動を通じて得られた意見について取りまとめました。については、以下の事項について積極的な対応をされることを要望します。

記

1. 養護老人ホーム和光園の運営について

養護老人ホーム和光園の入所者については、定員 50 名のところ、本年 4 月 1 日には 39 名となり運営状況が危惧されるところである。減少の原因は亡くなられた方、入院された方、介護度の高い方の施設入所などがあげられるが入所者の減は運営者（指定管理者）の人員配置や経営の圧迫などに繋がる。

市長は、施設の用途拡充などを国へ提言する「地域ケアサービス再生存継自治体協議会」の筆頭代表に就任されるなど、今後は多方面での活躍が期待されるところである。

しかしながら、すぐに実現されるものではない。今回、条例改正にて契約入所の受け入れなど提案され評価しているところであるが、今後も利用料や人員配置など受け入れ体制を整備するとともに、入所条件の緩和や各方面への声がけなども積極的に行い入所確保に尽力されるよう要望する。

2. 薬草のまちづくりについて

全国薬草フェスティバルが開催されるようになって数年、薬草講座など開催され市としても事務局の運営やメナモミの配布など飛驒市は薬草のまちとして、市民への普及など今後も期待されるところである。

しかしながら、薬草関連のグループも 4 団体あったが、2 団体は解散の予定であり構成

メンバーも高齢化も進んでおり今後のことことが心配される。

今後もさらなる市民への普及や団体での連携、インターネットでの全国へのPRや販売等を行なえる団体組織の立上げ、薬草メニューの開発など、薬草のまちとしての向上と交流人口の増加に繋がることを要望する。

3. 道の駅イベントについて

飛騨市の北と南の玄関口にある道の駅アルプ飛騨古川、道の駅宙（スカイ）ドーム神岡について管内視察を行った。

宙（スカイ）ドーム神岡はコロナ以前に戻ってきたようで今後も期待する。アルプ飛騨古川は車の台数も増えているようで以前よりは食事処や産地直売所である「そやな」もあり今後が期待されるが、もう少し販売スペースが欲しいという声を頂き、駐車場は使用できないが歩行者に無理がない場所において飛騨市としてのイベント企画を二つの駅において共同開催をし、飛騨市のPRや来客増加になるような企画の検討を要望する。

4. 奈良県河合町との交流について

河合町の止利仏師伝説を機に、吉城郡河合村時代に奈良県河合町と友好提携を結び20数年が経過している。

近年、飛騨河合止利仏師顕彰会が立ち上げられ、奈良県河合町に数回の訪問、企画展、ツアなどを顕彰会と河合振興事務所が中心となって市民への周知に努めていることは素晴らしいことであり、今後も継続を望みさらなる交流を求め、交流人口に繋げることを望み要望する。